

7 課

8月14日

休み、関係、 そして癒やし



安息日午後 8月7日

暗唱聖句

しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むくこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。(創世記 45 : 5、口語訳)

しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。(創世記 45 : 5、新共同訳)

今週の聖句

創世記 42 : 7~20、マタイ 25 : 41~46、創世記 42 : 21~24、創世記 45 : 1~15、ルカ 23 : 34、創世記 50 : 15~21

今週のテーマ

その男は、ある女性に対する性的暴行で告発されていました。彼の罪を立証する証拠は不十分でしたが、その女は「ジョニー」が犯人だと断言しました。

こうしてジョニーは、無実の罪のために14年の刑に服したのです。しかし、後に行われたDNA鑑定で彼の容疑が晴れたとき、「ジョーン」という名のその女性は、初めて恐ろしい過ちに気づきました。

彼女は、釈放されていたジョニーに会いたいと思いました。多くの苦しみを味わった彼が、長い年月にわたって人生を狂わされた女と対面したらどうなるでしょうか。

彼女は約束の場所で、彼が来るのを待っていました。彼が現れ、互いに目と目を合わせたとき、彼女の目に一気に涙あふが溢れました。

「ジョニーはただ、かがんで私の手を取り、私をじっと見て言ったのです。『僕はあなたを赦します』。私は信じられませんでした。目の前の男は、私が憎み、死んでほしかった男です。その彼が、彼にこんなにひどいことをした私を赦すと言うのです。こうして、私は初めて恵みの本当の意味を理解し始め、真の休みを見だし、癒やされ始めたのです」

今週は、赦しと赦しが人間の不安な心に何を与えるかを学びます。

結局、事態はヨセフにとって大きく良い方向へ進みました。彼は牢獄から出ただけでなく、ファラオの夢を解き明かし、エジプトの総理大臣に任命されます(創41章)。彼は結婚し、2人の子どもに恵まれます(同50~52節)。エジプトの穀物庫は満たされ、予言された飢饉が始まります。そうしたある日、ヨセフの兄弟たちがエジプトにやって来ました。

問1 創世記 42:7~20のヨセフと彼の兄弟たちとの最初の出会いを読んでください。なんと手の込んだ筋書きでしょう。ヨセフはこの最初の面会で、兄たちをどのようにあしらいましたか。

ヨセフには、彼の義を証明することもなく、直ちに兄弟たちに復讐する権威がありました。しかし彼は復讐せず、家に残っていた彼の家族を心配します。父はまだ生きているのか、それとも、この機能不全の家族は家長のいない家族になってしまったのか。そして彼の実の弟、ベニヤミンはどうしているのか。父の楽しみと喜びとして、今ベニヤミンはかつてのヨセフと同じ立場にいるはずでした。兄たちは、その危険な嫉妬をベニヤミンに向けていないだろうか。ヨセフはこうして今、この家族の最も弱い者たちのことを心配できるようになっており、事実そうしたのでした。

人間関係に聖書の原則を実践することは、虐待を容認することを意味するものではありません。私たち1人ひとは神の目に尊いのです。イエスは十字架で、私たち1人ひとりのために究極の代価を支払われたのです。

問2 なぜイエスはただ1人で、人が受けるはずの虐待と無視をお受けになったのでしょうか(マタ 25:41~46)。

私たちはみな、イエスの血によって買い取られ、法的に彼のものとなりました。だれかを虐待するなら、それはイエスのものを攻撃しているのです。

家庭内の関係において、性的虐待や心的、身体的暴力は決してあるべきではありません。それは、家庭内で内々に解決されるべき問題ではありません。それは、家庭外からの助けと介入を必要とする問題です。もし、あなたやあなたの家族が虐待を受けているなら、どうぞ信頼できる専門家の援助を受けてください。

あなたが今直面している困難な家族関係において、あなたが必要とする聖書の原則は何でしょうか。

ヨセフは兄たちを赦していました。ヨセフが彼らを赦した時がいつであったか、正確にはわかりませんが、彼らがエジプトに来るずっと前であったことは明らかです。もしヨセフが兄たちを赦していなかったなら、彼はエジプトで成功することはできなかったでしょう。なぜなら、ほとんどの場合、怒りや憎しみは、その人の魂をむしばみ、主との関係にダメージを与えるからです。

他者によって負わされた悲劇を乗り越えた人々についての幾つかの研究は、最も恐ろしい苦しみを経験した被害者が癒やされ、再び加害者と共に生活できるようになる鍵は、赦しであると強調しています。赦せない限り、私たちは被害者のままです。赦しは、加害者の問題でなく、私たち自身の問題なのです。

ヨセフは兄たちを赦してはいましたが、あのドタンの潤れ井戸で別れたときの、兄たちとの関係に戻りたいとは思いませんでした。彼は、兄たちが変わったか否かを見極める必要がありました。

問3 ヨセフは何を小耳にはさみますか。再度、創世記 42：21～24 を読んでください。彼は兄たちについて何を知りますか。

すべての意思伝達は通訳を介してなされていたので、ヨセフの兄たちは、ヨセフが彼らの言葉を理解しているとは知りませんでした。ヨセフは彼らの告白を聞きます。兄たちは昔、ヨセフを始末した後で、父には何とでも報告できると考えました。そうすれば、もうヨセフの夢を我慢して聞かなくてもいい、やっと父のひいきを受けて喜ぶヨセフを見なくて済むと考えました。しかし彼らは、心の休みを見いだす代わりに、この数年間、ずっと良心の呵責に苦しんできました。彼らの行いが彼らを不安にし、神の報いを恐れさせたのです。兄たちの苦しみを哀れに思ったヨセフは、彼らのために泣きます。

ヨセフはなおも数年間、飢饉が続くことを知っていましたので、次回はベニヤミンを連れて穀物を買いに戻って来るように兄たちに命じます（創42：20）。同時に彼は、シメオンを人質に取ります（同24節）。

ベニヤミンが無事であることを確認したヨセフは、明らかにベニヤミンをひいきする宴会を催し（創43：34）、兄たちの嫉妬心がまだそのままかどうかを確かめます。兄たちは全く嫉妬する様子を見せませんでした。ヨセフは彼らがずる賢いことを知っています。彼らがかつて町全体をだまし（同34：13）、彼の運命について父を欺いたに違いないことを知っていました（同37：31～34）。そこで彼は、もう一つの重要なテストを考えます（同44章参照）。

創世記 45：1～15 を読んでください。この物語は、ヨセフが兄たちについてどのように感じていたか、そして兄たちに対する赦しについて何を物語っていますか。私たちはそこから、どんな教訓を学ぶことができるでしょうか。

赦しとは、加害者あるいは不当な行為をする集団に対する憤り、非難、復讐する権利を進んで放棄することと定義されています。ホロコーストからの生還者たちが、彼らの身に起きたことを理解するためにしたことについて研究したファミリー・セラピスト、マリリン・アーマー博士は次のように書いています。「赦しのすべては被害者による意図的な行為であり、偶然の産物ではない」

赦しは、危害を与えた行為の結果を帳消しにはしません。赦しは、加害者に続けて虐待させることでもありません。そうではなく、赦しは私たちの憤りと復讐の思いを神に明け渡すことです。赦さないことによる怒り、苦しみ、憎しみは、私たちがされたことよりさらに悪い事態を生むことになるでしょう。

問4 他者を赦すことは私たちに何をもたらしますか（マタ 18：21～35）。

赦しを学ぶための鍵の一つは、疑いもなく、私たちがキリストにあって赦されていることを知ることです。私たちはみな、ただ人に対して罪を犯しただけでなく、神に対して罪を犯したのです。

罪の一つひとつは、紛れもなく、私たちの主、造り主に対する罪なのです。しかし私たちはイエスにあって、それらの罪はすべて赦されたと言うことができるのです。それは、私たちが赦されるに価するからではなく、そうではなく、ただ私たちに対する神の恵みによるのです。私たちがこの聖なる真実をつかむとき、私たちがこの赦しを自分のものとするとき、私たちが神の赦しを現実に体験するとき、私たちは他者からされたことを忘れて、他者を赦し始めます。私たちは、他者が赦されるに価するから赦すのではなく、私たちが神から赦されたから、そして赦すことが私たちに必要だから赦すのです。一方、私たちも同じように、神の赦しに価する者ではないことを忘れてはなりません。

さて、ヨセフは家族の関係に二度目のチャンスを与えます。そこに恨みはありません。過去に縛られてもいません。

どうすれば、互いを最も効果的に痛めつけることができるかを考えるようになったとすれば、もはやその家族にやり直す可能性はほとんどないでしょう。しかし、ヨセフの取った態度は、そのようなものではありませんでした。彼は兄たちがした過去を忘れ、愛と受容をもって前進したかったのです。ヨセフが異なる態度を取っていたなら、この物語はこれとは違ったものになり、幸いなものではなかったことでしょう。

ローマ4：7、8を読んでください。ここでパウロは、私たちがイエスにあって与えられたものについて、そして、このすばらしい約束は、私たちを傷つける人々との関係を変える影響力を持つはずであることについて何を語っていますか。

赦すためには、まず私が傷ついていることを認めなければなりません。これは難しいことです。私たちは時に、そのような感情に向かい合うのではなく、忘れ去ろうとする傾向があります。クリスチャンには似つかわしくない憤りや怒りといった感情でさえ、神の前にそれらを認めることは良いことです。私たちは詩編の中に、しばしばそのような表現を見ます。私たちは、自分に起きた不愉快なこと、自分がされて嫌だったこと、悲しかったこと、怒りなどを神に遠慮せずに語っていいのです。

ヨセフの物語の中でも、彼が兄弟たちに再会して泣き、彼の中に過去の感情がよみがえるのを見ます。

問5 イエスの十字架上の宣言は、赦しのタイミングについて私たちに何を語っていますか (ルカ 23:34)。

イエスは、まず私たちが赦しを求めるのを待たれませんでした。私たちは、被害者が私たちに赦しを求めるのを待つ必要はありません。私たちはまた、彼らが私たちの赦しを受け入れるかどうかに関係なく赦すことができるのです。

問6 ルカ 6:28 とマタイ 5:44 は、私たちが傷つける人たちとの関係について何を教えていますか。

赦しは、愛と同じように感情ではなく、選びによって始まります。私たちは、たとえ感情が赦すという決断に同意しなくても、赦すことを選ぶことはできます。神は、私たちが自分の力で赦しを選ぶことは不可能であることをご存じです。しかし、「神は何でもできる」のです (マコ 10:27)。これが、私たちが、私たちが傷つける人たちのために祈るように命じられている理由です。ある場合には、赦すべき相手がすでに亡くなっていることもあるでしょう。それでもなお、私たちがその人を赦す力を求めて祈ることができるのです。

赦しがいつでも容易でないことに、疑いの余地はありません。痛みとダメージはひどく、私たちが傷つけ、立ち上がれないようにし、打ち碎きます。それでもなお、傷ついている自分を認めるなら、癒やしは与えられます。しかし、苦い気持ち、そして怒り、そして憤りを抱いたままにしていると、癒やしを困難にし、全く不可能にさえします。

あなたには、その相手のためにではなく、自分自身のために赦さなければならない人がいますか。

ヨセフの家族は遂にエジプトに着きます。この家族にはもう暗い秘密はありません。父が死んだと思っていた息子がエジプトで総理大臣になっていることを父に説明するために、彼らはヨセフを売ったことを認めたに違いありません。

関係を回復することが常に可能であり、賢明であるとは限りませんが、かと言って、赦すことが不可能なわけでもありません。加害者と抱き合い、共に涙することはできないかもしれませんが、口か手紙で赦す気持ちを相手に伝えることはできるかもしれません。それが痛みを手放すために最大限できることです。もしかしたら、それでも残る痛みがあるかもしれませんが、少なくともそのとき、私たちは癒やしへの道を歩み始めているのです。

問7 創世記 50：15～21 を読んでください。ヨセフの兄弟たちは何を心配し、なぜ心配したのでしょうか。この恐れは彼ら自身について何を語っていますか。

ヨセフの兄たちは、すでにエジプトに17年間（創47：28）住んでいましたが、ヤコブが死んだとき、ヨセフが仕返しをするのではないかと恐れました。彼らはもうひとたび、彼らがどれほどヨセフを傷つけたかを知ります。ヨセフは父親が死んだ今、兄たちに再度赦しの保証を与えます。この再確認はおそらく、兄たちにだけでなく、ヨセフにとっても必要だったでしょう。

傷がいかに深くても、私たちはおそらく、何度も赦さなければならぬでしょう。いやな記憶がよみがえるとき、私たちは祈りによってすぐに神のもとに行き、もう一度赦すことを選ぶ必要があります。

問8 創世記 50：20 を読んでください。この聖句は少なくとも、ヨセフが彼に対する兄たちの罪を喜んで赦した理由の一部を説明してくれるでしょう。

ヨセフは自分の人生が、世界を飢饉から救うため、そして家族が、神の約束の成就の助けとなるために大いなる国民とされるといふ、神の大きな計画の一部であることを堅く信じていました。神が、兄たちの悪たくみをも支配して善に変えられたことを知ることが、ヨセフが彼らを赦す助けになりました。

ヨセフの物語はハッピーエンドで終わります。私たちは、この物語の終わりがそうでなかったら、どのように考えるでしょうか。あるいは、長い目で見て、やがてすべての問題が解決され、大争闘が終わり、罪が終わるとき、ハッピーエンドを迎えると考えることはできるでしょうか。このように考えることは、思わしくない終わり方を受け入れるための助けになりますか。

「ヨセフが兄弟たちによって異邦人に売られたのと同じく、キリストもまた、ご自身の弟子のひとりによって、最も憎むべき敵に売り渡された。ヨセフは、節操を守ったために、偽証によって牢獄に投げ込まれた。キリストも同じように、彼の自己否定の生涯が周囲の人々の罪に対する譴責ちんさくとなり、正しかったためにあざけられ、捨てられたのである。なんのともがも犯さないのに、偽証人の言葉によって罪に定められた。ヨセフが、不正と圧迫を受けても忍耐し、柔和であって、また無情な兄弟たちに対しても赦しと高貴で寛大な精神をあらわしたことは、悪人たちの嘲笑と悪意の中にあってもつぶやくことなく忍耐し、彼を殺害した者ばかりでなく、彼のもとに来て罪を告白し、赦しを求めるすべての者を赦す救い主を象徴している」（『希望への光』121ページ、『人類のあけほの』上巻271、272ページ）。

「人を赦さない精神を、正しいと認めることはできない。他の人に対して無慈悲な者は、その人自身が神の赦しの恵みを受けていない証拠である。神の赦しによって、過ちを犯した者の心は、無限の愛なる神の大いなるみ心に近く引き寄せられる。神の憐れみが潮のように、罪人の心に流れ込み、又その人から他の人々の心に流れ込むのである。キリストがその尊い生涯にあらわされたやさしさと憐れみとが、主の恵みの共有者となる者の中に見られるのである」（『希望への光』1281ページ、『キリストの実物教訓』226ページ）。

話し合いのための質問

- ① ある人が、「人を赦さないのは、他人が死ぬように願いながら、自分も毒を飲むようなものだ」と言いました。それはどういう意味でしょうか。
- ② 自分の身分を明かすまでの、ヨセフのすべての入念な計画は、どんな目的のためだったのでしょうか。この計画は、ヨセフと兄たちにどんな影響を与えましたか。
- ③ ヨセフの執事は、ヨセフの兄弟たちのために立てられた筋書き通りに演じていたはず（創44：1～12）。赦しの経験は、周囲のただの傍観者たちに、どのような影響を与えるでしょうか。
- ④ 「もし神の子らが始めから終りを見通すことができ、神の共労者として自分の果たしている栄光ある目的をみとめることができたら、彼らは、神がみちびかれる以外の道を決して選ばないであろう」（『希望への光』781ページ、『各時代の希望』上巻282ページ）。この文章を瞑想めいそうしながら、あなた自身の人生に当てはめてみてください。私たちが多くの試練や闘いに直面するとき、この文章はどのように助けとなりますか。

「あなたの神に会う備えをせよ」

(ジェシカ・ケブハー・アットウェル)

タイのバンコクにある我が家でのことです。私の6歳の息子アッシャーが、私に近づいてきて言いました。「ママ、ぼく、チラシを配りたいんだ」

いくつかの質問の後、彼がタイ語で書かれた「イエスからのラブレター」という小さいトラクトを配布したがっていることがわかりました。小さな男の子がイエスへの愛を伝えたいと思っていることを知り、私の心は喜びで踊りました。しかし、金曜日は良い日であるとは思えませんでした。人々はコロナのパンデミックのために家の中に閉じこもっていましたし、私は安息日の備えをしていたからです。

安息日の朝のディボーションの間、アッシャーの願いを思い出し、トラクトを持って彼を連れ出しなさい、と語りかけられた気がしました。しかし、私はそうしませんでした。

その日の午後と夕方、友人と安息日の説教動画を見ていると、牧師はエレン・ホワイトのアピールで説教を締めくくりました。「キリストがまもなく来られると信じている民として、私たちが伝えるべきメッセージは、『あなたの神に会う備えをせよ』（アモス4章12節）です」。私は、「これこそ、タイの人々に伝えたいことだ!」と思いました。

日曜日の朝、エレン・ホワイトのアプリで、その日のディボーションメッセージを読むと、そこには、アモス書4章12節の言葉、「あなたの神に会う備えをせよ」が含まれていたのです！ 私は、胸に迫るものを感じました。朝食のとき、アッシャーは懇願するような目で私を見ていました。私は、必ずトラクト配布をさせてあげる、と息子に約束しました。

彼はアモス書4章12節を覚えた後、出かけました。夫のブライアンと私は、2014年にタイへやって来たときからずっと支援している伝道センターへ、できたてのパンを運ばねばなりません。外へ行くとき、アッシャーはいつも自転車を使うのですが、「今日は歩いてトラクトを全部配るんだ」と言いました。私たちはまず、パンを注文した隣人の所に行くまでの1.6キロを歩き始めました。「あなたの神に会う備えをせよ!」と、彼はタイ語で叫び、通りかがりの人にトラクトを手渡しました。コロナにもかかわらず、熱心な少年を拒む人はいませんでした。



家に戻ると、彼は興奮していました。トラクトを100枚配ったのです。「これを毎日したい!」彼は笑みを浮かべて宣言しました。神は、バンコクのような大都市が備えをすることを心から望んでおられるのです。